

「太平記三十六番相撲」 「第廿八之番ヒ」 「可児才蔵」

作者名

絵師：落合芳幾 おちあいよしいく

天保4年（1833）－明治37年（1904） 幕末-明治時代の浮世絵師。

天保4年（1833）生まれ。歌川国芳うたがわくによしにまなび、同門の月岡芳年つきおかよしとしとならび称された。

明治5年（1872）「東京日日新聞」、8年（1875）「東京絵入新聞」の創刊に参加。新聞紙上に挿絵をとり入れた。美人風俗画や役者似顔絵などを得意とした。

明治37年（1904）2月6日死去。72歳。

江戸出身。通称は幾次郎。



作品の特徴

寛政9年（1797）から享和2年（1802）にかけて、上方で出版された武内確斎たけうちかくさいによる読本『絵本太閤記』えほんたいこうき（七編）について取材をおこない描いた作品。

経緯等

この作品は、可児才蔵を題材としており、明治2年（1869）頃の作品とみられる。知名度は低い武士のためか市場での流通はほとんどありませんが、令和元年度に御嵩町が入手した貴重な資料です。

その他

可児才蔵ゆかりの地として、町をあげて才蔵の検証および普及をはかっていくなかで、現在、才蔵に関する歴史的な資料は願興寺がんこうじに伝わる『大寺記』おおてらきのみであり、残念ながらその他の資料は皆無といえます。

本資料は、資料の少ない才蔵の様子を知る貴重な手がかりとなるものであり、才蔵ゆかりの地として当町が所蔵することで、広く御嵩町のみなさんに実物を見て感じていただくとともに、今後、100年、200年と御嵩町ゆかりの人物の歴史資料として保存し伝えていきたい貴重な資料です。

所蔵

中山道みたけ館（岐阜県可児郡御嵩町御嵩 1389 番地 1）

